



神輿を担いで町を練り歩く相模女子大の学生ら (22日、福島県本宮市)

## 女神輿、復興へ「せいやっ」

福島 相模原の学生助っ人

「せいやっ」「さーっ」。福島県本宮市で開かれた「もともや秋祭り」で22日、女性だけで担ぐ伝統の「真結女神輿(まゆみよこし)」が登場した。今年は2年前から地元農家と交流を続ける相模女子大学(相模原市)の学生らが応援の担ぎ手に。「震災や風評被害に負けず、元気を取り戻し

て」と願った。小雨の中、神輿を担いだのは、鉢巻と緑のそろいの法被姿の女性ら約90人。傘を差した地元住民らが沿道で見守る中、同大3年の遠田友梨絵さん(21)ら学生12人も引き締まった表情で掛け声を響かせた。

同大は2009年に本宮市と協定を結び、農家へのホームステイを支援。遠田さんはこれまで5回以上訪問し、郷土料理作りや農作業の手伝いを続けた。8月に訪れた際は、避難中に身を寄せ合い寒さをしのいだ話を聞いて心を痛めたという。「私たちが神輿を担

ぐことで、少しでもみんなの気持ちを盛り上げられたらうれしい」と話していた。